

## 学校再開 校長講話(2.6.1)

みなさんおはようございます。

学校再開にあたり、一つお話をしたいと思います。

高校生活に期待を抱いている1年生のみなさん、学校生活や部活動の中心として活躍したいと思っている2年生のみなさん、高校生活最後の1年を悔いの残らないように、自分の進路を実現させたいと決意している3年生のみなさん、3月2日からの臨時休業に始まった長期休校措置による自宅待機生活は、あなたをどのように成長させたでしょうか。主体的に学習する習慣が身に付きましたか。今までの自分や学校で学ぶことの意義を見つめなおし、将来の夢や目標が一層明確になりましたか。高校入学以来、学習とともに部活動にも情熱を傾けてきた3年生、インターハイや甲子園の県予選など、最後の大会が中止になったことや、演奏会や作品展が開催できなかったことを冷静に受け止め、気持ちを切り替えることができるようになりましたか。

みなさんは歴史や古典の授業の中で、天変地異や戦乱等によって人々の人生観や価値観が大きく揺らぎ、変化したことを学んできたと思います。また、本校の前身である「明道館」を設立した松平春嶽公やその「明道館」の「学監同様心得」に任命された橋本左内先生が、江戸幕府という絶対的な存在、価値観が崩壊していく中で、日本の近代化、新しい社会の創造を、教育を通して目指したことを知っていると思います。今、私たちも、そのような大きな転換点に遭遇しているのだと思います。

「耐雪梅花麗」(雪に耐えて梅花麗し) これは1872年(明治5年)に、西郷隆盛が明治維新後の激動の時代を困難に負けることなく強い心をもって生き抜いて欲しい、と甥の市来政直(いちきまさなお)に詠んで送った漢詩の一部です。その意味は「梅の花は冬の厳しい雪や寒さに耐え忍ぶからこそ、初春に美しく花を咲かせ、かぐわしい香りを放つ…人生にたとえると、人間は苦難や試練に耐え、それを乗り越えた時に大きく成長出来る」と解釈されています。

みなさんも、しばらく立ち止まる時間は必要であったと思いますが、一人ひとりが本校の先人達の伝統を受け継ぎ、しっかりと前を向いて歩いてほしいと思います。

いよいよ今日から学校再開です。本校の教職員は、休校期間中もあなたにメッセージを送り続け、あなたの様子を見守り続けてきました。これからも感染への恐れや学習・進路に関わる不安など、ストレスを感じる日々が続くかもしれませんが、学校という一つの場所で共に過ごし、あなたのいろいろな思いに耳を傾けながら、全力で支援していきます。

まずは、今まで忘れていた挨拶からゆっくり学校生活をスタートさせてください。

終わります。